



平成 19 年 11 月 22 日

各 位

株式会社バルクホールディングス
代表取締役社長 村松 澄夫
(コード番号：2467 名証セントレックス)
問合せ先：取締役管理部長 柏山 一郎
電話番号：03-5649-2500 (代表)

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 25 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の業績予想の修正ならびに特別損失の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生について

当中間期における特別損失の主な内訳は、投資有価証券評価損 35 百万円、貸倒引当金繰入額 26 百万円であります。

投資有価証券につきましては、将来性とグループ全体の事業シナジーを見込んで投資を行ったものでありますが、投資先の前期及び当期の業績、並びに当中間期末時点での財政状態を勘案し、その投資価値が下落しているものについて相応する損失を減損処理したものであります。

また、貸倒引当金の繰入につきましては、連結子会社の外注先に対する貸倒懸念債権について貸倒引当金を計上したものであります。

2. 連結業績予想の修正

(1) 中間期の連結業績予想（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	850	20	20	11
今回修正予想 (B)	692	△69	△66	△137
増減額 (B - A)	△157	△89	△86	△148
増減率	△18.6	—	—	—
前期実績(平成 19 年 3 月期中間)	807	△21	△22	△19

(2) 通期の連結業績予想（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	1,850	107	107	60
今回修正予想（B）	1,690	1	7	△70
増減額（B－A）	△160	△106	△100	△130
増減率	△8.6	△99.1	△93.5	—
前期実績（平成 19 年 3 月期）	1,687	43	41	△23

(3) 業績予想修正の理由

当中間期のコンサルティング事業^{※1}につきましては、情報セキュリティ関連実装ビジネスが伸び悩んだものの、内部統制関連及びプライバシーマーク認定取得・更新関連の需要が拡大し、売上高は堅調に推移いたしました。一方、マーケティングリサーチ事業につきましては、大手競合各社の経営統合等により競合環境の激化が進み、受注単価の低下や新規顧客獲得数が減少するなど、厳しい経営環境となったため、売上高は当初予算を下回る見込みとなりました。以上の結果、連結では当初予算を 157 百万円下回る 692 百万円となる見込みです。

営業利益につきましては、上記売上高の減少による影響の他、マーケティングリサーチ事業及び情報セキュリティ実装ビジネスの案件単価低下に伴う利益率の低下、当初計画を上回る新規事業立上げ関連費用の発生、内部統制構築関連費用の増加等により当初予算を 89 百万円下回る 69 百万円の損失となる見込みです。

経常利益につきましては、受取利息及び為替差益により営業外収益が増加したものの、営業損失の影響により、予想を 86 百万円下回る 66 百万円の損失となる見込みです。

中間純利益につきましては、上述の経常損失の計上による影響のほか、特別損失を計上したことにより当初計画を 148 百万円下回る 137 百万円の損失となる見込みです。

下半期の業績予想につきましては、当社グループの受注が下半期に偏重する傾向にあることや新設子会社の本格始動、組織再編などの合理化の効果や売上構成の変化による案件単価の向上などにより、収益の改善を見込んでおりますが、当期の通期業績予想につきましては当中間期の業績の影響により、当初予想を下回る見込みです。

※1. 事業コンセプトを再度明確化し、さらなる事業ドメインの拡充と競争力の強化を推進するべく、事業セグメントの名称を「PBISM 事業」から「コンサルティング事業」に変更いたしました。

（備考）上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、様々な不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

以 上